科目区分	専門教育科目	科目名	子どもの絵と製作（指導法）	科目コード	18Y660	担当者	昆　正子
対象学生	幼児教育学科 2年生	学期区分	前期	単位数	1	担当形態	単独

科目	施行規則に定める科目区分又は事項等	卒業要件	選択
		免許・資格要件	幼稚園教諭選択必修、保育士選択必修

科目の主題	学修成果との関連（大◎、中○、小△）					
幼児の豊かな感性や表現意欲を育むための適切な援助や指導ができる 能力の涵養と保育内容の研究	1．「尽心」誠実な人柄と人間力		2．「創造」高度な知性と創造力		3．「実践」明確な意思と実践力	
科目の到達目標	①誠実性・真摯性	②多様性・協働性	③知識・技能	④思考・表現・創造・判断力	⑤主体性・実行力・自立性	⑥就業力・貢献力
1．材料や用具、技法の扱い方を習熟し、自身の作品制作に活かすことができる						
2．幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解できる						
3．教育要領の基本・ねらい及び内容をふまえる視点をもって保育を計画し、省察することができる						
4．	○	○	○	○	○	
5．						

授業方法	成績評価の方法と割合
身近な材料や用具によるさまざまな造形表現活動とその指導方法について提示し、演習を行う。 保育現場での実践事例を紹介し、造形表現の目的や意義を説明する。 保育現場での実践を想定し教材研究を行い、発表・協議する。	提出物（50%） 発表内容（40%） 受講態度（10%）
準備学修	**課題等への対応**
予習・復習に年間15時間確保してほしい。 予習：教科書や前時に配布されるプリント等を熟読し、必要な用具や材料、計画などを準備してくる。 復習：授業での学習内容をまとめ整理する。 また、制作に必要な時間には個人差があり、作品完成のために時間外での制作を必要とする場合がある。	レポート、作品は回収後、適宜助言を書き添え、後日、本人に返却する。

授業計画	
第1回	1年次「子どもと表現（美術）」の授業を振り返り、今後の授業の見通しを持つ
第2回	表現の個人差と読み取りについて理解し、事例から環境構成、言葉かけ等の人的援助の方法について学ぶ
第3回	用具の発達について確認する
第4回	土粘土による表現を行い、素材の可能性について学ぶ１
第5回	土粘土による表現を行い、素材の可能性について学ぶ２
第6回	土粘土による表現を行い、素材の可能性について学ぶ３
第7回	これまでの造形体験や資料から主体的学び・対話的学び・深い学びへのアプローチについて理解を深める
第8回	製作活動の指導計画を構想する
第9回	製作活動をいかした遊びの広場を計画する１（見本の制作）
第10回	製作活動をいかした遊びの広場を計画する２（環境設定）
第11回	製作活動をいかした遊びの広場を計画する３（環境設定）
第12回	造形活動をいかした遊びの広場を計画する４（模擬保育）
第13回	造形活動をいかした遊びの広場を計画する５（準備・確認）
第14回	造形活動をいかした遊びの広場を設定する
第15回	造形活動をいかした遊びを展開し省察する
試験	定期試験を実施しない

教科書	『幼児造形の研究　保育内容「造形表現」』辻泰秀編著、萌文書林 『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』	受講生へのメッセージ	制作の際には、汚れてもよい服装等、各自心がけること。 材料用具は個人負担であり、準備物は不可欠である。
参考書等	『保育をひらく造形表現』槇英子、萌文書林		